美濃陶磁歴史館だより

美濃陶磁歴史館 ☎㊺1245

連続コラム

うちんたぁのお宝、なんやね？

第3回 泉町 推定120kg！ 市内最大級の陶製狛犬

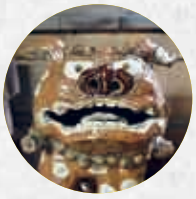
陶製狛犬にさまざまな願いを込めて神社に奉納する風習は、全国的には珍しく東海地域特有の文化です。阿吽（あうん）の2体1対で奉納されるそれらの狛犬には奉納年が記されたものもあり、特に江戸時代、地元の人々の手によって盛んに奉納されてきました。市内の神社には70体を超える陶製狛犬が今も残っており、そのうちの4対1体計9体が市指定文化財です。

泉町の白山神社には阿吽がそろった2対と阿形のみの1体、計5体の陶製狛犬が残存し、対の4体は市指定文化財です。中でも、今回紹介する狛犬は体長約1m、重さ推定120kgで市内最大級です。阿形（写真右）の背には奉納年と奉納者の名が、吽形（写真左）には狛犬の制作者の名が彫り込まれています。

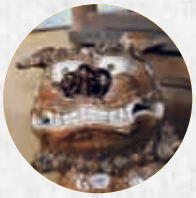
【阿形】 享和元年　辛酉九月朔日　當村氏子中　世話人　下郷生駒周治　上郷水野新五良　竈郷田中數右衛門

【吽形】 土岐郡妻木町山本□衛宗和作

※解読不明箇所は□で表記



阿形



吽形

阿形に記された世話人3名は、この大狛犬が奉納された年の2年前、寛政11年（1799）に白山神社が再々建立となった際の棟札（むなふだ）にも名を連ね、氏子としてさまざまな神社行事に携わっていたことが分かります。吽形に記された山本は、狛犬をはじめ神社に奉納する狐や猿をかたどった神の使いの制作を近隣から請け負っていたようで、多治見市、瑞浪市の神社にもその名が刻まれた陶製狛犬が残っています。特に大型の狛犬の制作を得意とし、残存する山本作の狛犬をみると制作の度に大型化しています。中でも白山神社の狛犬が最も大きく、焼成前に損傷し修復したとみられる痕跡からは制作時の苦労がうかがえます。

奉納以降220年にわたり白山神社に鎮座し続けるこの大狛犬ですが、下部の損傷と老朽化した台座により、動かすこともままならない状態が続いていました。そんな中、神社関係者の尽力により令和2年5月には新たな台座が用意されました。どっしりと腰を落ち着けた大狛犬がこれからも地域の人々の信仰を見守ります。

土岐市美濃陶磁歴史館　展覧会情報

企画展　「現代茶陶展のあゆみ」・重要文化財公開「元屋敷陶器窯跡出土品展」

6月20日まで同時開催中！